

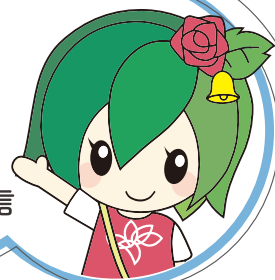
令和5年度 福山大学公開講座

コロナ明けの 日常／非日常

どなたでも受講できます

受講料
無料

対面講座
オンデマンド配信



期間

9月16日 ▶ 10月21日

【毎週土曜日】9/23は除く

11:00 ~ 12:00

福山大学（1号館1階01101大講義室）

対面講座（全5回）

各講座 150名

4講座以上の対面受講者に修了証書を授与
（オンデマンド受講者は対象外）



第1回

9月16日（土）

経済データから見るコロナの影響とその後

経済学部 講師 助田 暁

第2回

9月30日（土）

歴史と疫病

—奈良時代の天然痘とその対応策から—

人間文化学部 講師 古内 絵里子

第3回

10月7日（土）

水族館に癒される社会

—with コロナ時代における
水族館の役割と可能性—

生命工学部 講師 真田 誠至

第4回

10月14日（土）

コロナ明けの日常／非日常

—メタバースと備後圏域—

工学部 教授 香川 直己

第5回

10月21日（土）

病原微生物と感染症、薬は人類を救うのか

薬学部 教授 前田 頼伸

申込方法

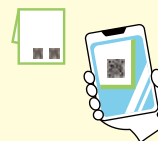
締切 9月9日（土）

パソコンから

大学HPより申し込めます。

福山大学 公開講座 検索

スマートフォン
タブレットなどから
こちらのQRコードから



QRコードを
カメラでかざして
申込スタート！

（個人情報の取り扱いについて）
個人情報につきましては、本公開講座に関する連絡以外に
使用することはございません。

オンデマンド配信

事前に作成した講師の動画を「Youtube」にて公開します。



以下の配信期間、全5講座すべて無料配信

期間 9月16日 12:00 ▶ 10月21日 12:00

インターネットに接続できるスマートフォン、タブレット、パソコンなどから受講できます。※通信費は自己負担になります。

視聴方法

右記のQRコードまたは
大学HPのリンクより
ご視聴ください。



問い合わせ先：福山大学 総務部 企画・文書課 〒729-0292福山市学園町1番地三蔵 TEL:(084)936-2111

主催：福山大学

後援：福山市教育委員会

コロナ明けの日常／非日常

令和5年度 福山大学公開講座

令和元年度と令和4年度（令和2・3年度は中止）は「備後地域の記憶・変遷と将来展望～新時代の幕開け～」という統一テーマで、備後地域の過去・現在と未来に関わる様々なトピックスをご紹介しました。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行し、日常生活や経済活動が新型コロナウイルス感染症以前に戻る兆しの年となります。そこで、「コロナ明けの日常／非日常」と題し、我々が日常接する、経済・風土や文化・様々なものづくり産業・農業や漁業・医療や薬品・食品・メンタルなど様々な課題に対して、with コロナにおける取り組みを多彩な講師陣が多角的観点から研究成果やトピックスを交えながらわかりやすく紹介・解説いたします。

経済データから見る

コロナの影響とその後 経済学部 講師 助田 暁

コロナ禍において、感染者数のデータを目にするのが多かったですね。当時ロンドンにいたこともあって、次々と衝撃的なニュースが飛び込んできたのが思い出されます。本講座では、コロナが人々の行動にどう影響を与えたのかを、様々なデータを通して見ていきたいと思います。例えば株価であれば、コロナ以前の価格をはるかに越えたものもあれば、未だ越えていないものもあります。データを詳しく見ることで、コロナの経済的なコストの特徴を明らかにします。一方で、コロナを機に促進されたビジネスや慣習もあります。これらは、コロナが収まるとともに縮小してコロナ以前のようになるのでしょうか。分析を通じて将来を見通してみたいと思います。

歴史と疫病 —奈良時代の天然痘とその対応策から—

人間文化学部 講師 古内 絵里子

新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、我々の経済・社会・文化は大きな影響を受けています。歴史を振り返ると、このような大規模なパンデミックは、世界各地で度々発生しています。日本でも、1300年前の奈良時代に天然痘ウイルスの大流行がおきました。外国より流入した天然痘ウイルスは、日本中で猛威を振り、当時の日本の人口の30パーセントが亡くなったといわれています。この大流行により、中央政府は機能が停止状態となり、政治にも大きな影響を及ぼしました。しかし、この未曾有の事態に対して、奈良時代の人々は、水際対策、生活様式の変化など様々な対応策をとり、疫病に立ち向かっていきました。そこで、本講座では奈良時代の天然痘とその対応策からコロナ禍を考えていきます。

水族館に癒される社会

—with コロナ時代における水族館の役割と可能性— 生命工学部 講師 真田 誠至

日本は水族館大国と呼ばれていて、国土面積あたりの水族館数は世界一を誇ります。日本動物園水族館協会によると現在51の水族館が登録していて、未登録園館を含めると100を超えるとされています。大学の因島キャンパスにはマリンバイオセンター水族館が設置されていて、海洋生物科学科の学生がこの施設を活用した実験実習と研究活動を行っています。本講座では、元水族館職員の教員が「水族館に癒される社会」と題して、水族館が持つ魅力と癒しの効果について紹介します。その中では、水族館の役割として、生物多様性の保全と教育活動の取り組みについて解説します。また、with コロナ時代で見えてきた水族館の課題や新たな取り組みについて考えます。

コロナ明けの日常／非日常

—メタバースと備後圏域— 工学部 教授 香川 直己

コロナ禍は、まさに私たちの日常／非日常の壁を崩しました。そして、この出来事の中で急速に注目された概念がメタバースです。メタバースは、仮想現実と現実を境目なく融合させた世界で、その実現は私たちの生活やビジネスに大きな革新をもたらすと言われています。例えば、製品の設計・開発・販売において、仮想世界での実験やデモンストレーションが可能になり、より効率的なビジネスを展開できます。また、遠隔地とのコミュニケーションも円滑になり、グローバルなビジネス展開が可能になるでしょう。メタバースの実現を支える技術や資産、風土に目を向ければ、備後圏域は重要な役割を果たすことになると考えられます。今後、備後圏域からどのような世界観が発信できるかを一緒に考えてみましょう。

病原微生物と感染症、薬は人類を救うのか

薬学部 教授 前田 頼伸

2023年4月初めの時点で、日本国民の26.8%が新型コロナウイルスに感染しており、死亡率は0.22%です。第1波の頃の死亡率5.3%と比べるとかなり減ってきています。そういった状況の中、政府がGW明けに5類に移行することを決定し、新型コロナウイルス感染症を他の人にうつすリスクについて、厚労省の発表では、発症2日前から発症後7～10日間ほどウイルスを排出していると言われていました。結局、強い感染力が5類になって弱くなるわけではないので、感染症対策が自己責任となる今後は、それを踏まえた行動が必要になるとの見解を示しました。この3年間に医学の進歩によって、ワクチンや様々な薬が開発され、新型コロナウイルスの治療に関しては、だいたいの形ができています。本講座では、感染経路の遮断、ワクチンの重要性、など、微生物との共存をわかりやすく紹介します。